

審議会等の会議結果報告

1 会議名	平成27年度第4回久居地区地域審議会
2 開催日時	平成28年2月3日(水) 午後1時00分から午後4時10分まで
3 開催場所	久居体育館 1階会議室
4 出席した者の氏名	(久居地区地域審議会委員) 井面三砂、上田貴意、大井佳壽美、大川兼次郎、大幡貞夫、 桂山ひろ子、岡みち子、近藤文乃、佐藤ゆかり、田中稔、中森堯子、 服部孝、宮田實、森下隆史 (榊原未来会議) 会長 煙ヶ谷博美、副会長 中谷二美、監事 西山宏和、 委員 上田理恵、委員 鶴見佳代 (事務局) 久居総合支所長 蓑田博之、 地域振興担当参事(兼)地域振興課長 澤井尚、地域支援員 横田明人、 地域振興課産業振興・環境担当副参事 奥野 芳章、 地域振興課地域支援担当主幹 笠井洋幸、 同課地域振興担当副主幹 今田真孝、 同課地域振興担当副主幹 中山千春、 地域連携課対話連携担当副主幹 田口 芳裕
5 内容	1 まちづくりについての意見交換 2 その他
6 公開又は非公開	公開
7 傍聴者の数	なし
8 担当	久居総合支所 地域振興課 地域振興担当 電話 059-255-8819 E-mail 255-8812@city.tsu.lg.jp

・議事の内容 下記のとおり

地域振興課長 皆さん、こんにちは、本日はお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、定刻になりましたので、ただ今から、平成27年度第4回久居地区地域審議会を始めさせていただきます。

なお、事前に日程を調整させていただきましたが、本日、久世委員様におかれましては、所用にて御欠席との連絡をいただいております。

本審議会の情報公開につきましては、委員個人名での掲載とさせていただきますので、御了承いただきますようお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、久居総合支所長の蓑田から御挨拶申し上げます。

総合支所長 失礼いたします。

皆様、改めましておはようございます。

本日は、お忙しい中、第4回久居地区地域審議会にお集まりいただきありがとうございます。

平素は、市行政に対しまして御理解、御支援をいただいておりますこと、この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。

さて、28年度には、この久居地域におきましては久居駅周辺地区整備事業が本格化してまいります。28年度には予定通りであれば、いよいよ現場が動いて来る時期になってまいります。休館をしている久居市民会館の取り壊し、東鷹跡町の旧久居庁舎取り壊しの後に久居ホールの建設、それから久居駅東側の整備などを含めて、いよいよ計画通り進みますと、平成28年4月以降そういった事業が始まってまいります。久居駅周辺整備事業は、計画ではトータルで70億円程の事業になりますが、この事業が始まりますので、久居地域の皆様方には、この事業の進捗について、ご理解の程、よろしくお願ひしたいと思います。

さて、本日の審議会は、榊原未来会議の皆様にご出席をいただいております。榊原未来会議の皆様におかれましては、榊原地域の活性化について、様々な取組ををされてみえます。本日の地域審議会の中で意見交換をお願いしますので活発な議論ができればよいなと思っております。

最後になりますが、この地域審議会ですが、合併後、地域審議会が開かれてまいりました。新津市も10年の誕生日を迎えました。地域審議会も法定の10年の区切りを迎えることとなり、本日と次回3月に予定する審議会で、ひとつの区切りを迎えることとなります。現在の委員の皆様には、2年間になりますが、本日にありがとうございました。

地域振興課長 それでは、議事に入ります前に、本日は榊原未来会議の皆様にご出席をいただいております。榊原未来会議の皆様におかれましては、先程も、支所長挨拶の中で触れましたが、榊原地域の活性化の若手のグループとして活動され、随時、本審議会でも活動状況をご報告させていただいてきましたが、兼ねてより、前任の委員様から、意見交換の場をとのご意見がございまして、やっと実現することができました。

本日、御出席いただいている方をご紹介します。

正面に座っていただいております。まず、中央が会長の煙ヶ谷博美会長様です。中谷二三副会長様です。西山宏和監事様です。上田恵理委員様です。鶴見佳代委員様です。本日は代表して5名の方がご出席していただきました。本日は意見交換を設定させていただいておりますので、活発な意見交換をお願いします。

続きまして、本日の資料の確認をさせていただきたいと思っております。

本日お配りさせていただきました資料といたしましては、

- ・ 事項書
- ・ 資料 1 「榊原未来会議 活動報告」
- ・ 資料 1-2 「榊原未来会議」設立の経緯及びこれまでの活動
- ・ 資料 2 「久居地区地域審議会の記録」

また、別に依頼文書として「地域審議会の記録誌に掲載する原稿の提出について」の2枚綴りの文書がございます。

他に「ひさい地域だより」が2部ございます。これは少し古いものですが、夏号で榊原未来会議のご紹介、また、秋号については煙ヶ谷会長をご紹介した記事が掲載されておりますので、ご参考にしてください。

以上でございますが、不足する資料はございませんでしょうか。もし資料が無いようでしたら、事務局に申し付けていただきたいと思います。

それでは、事項書に基づきまして、会議を進めていただきたいと思います。
大幡会長様よろしくお願いたします。

議 長 それでは、「地域審議会の設置に関する協議」第9条第5項に基づき、議長を務めさせていただきます。

本日は、14人の出席をいただいておりますので、「地域審議会の設置に関する協議」第9条第4項の規定により、当審議会は成立しておりますことを御報告いたします。

続きまして、本日の会議録の署名委員ですが、本日は、大川委員と桂山委員のお二人にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いたします。

1 まちづくりについての意見交換

議 長 それでは、事項1「まちづくりについての意見交換」に入らせていただきます。本日は、榊原未来会議のメンバーの方々5名をお招きしました。

「まちづくりについての意見交換」を行いたいと思います。

まず、榊原未来会議の皆様より、榊原未来会議の活動の説明をいただき、その後意見交換に入りたいと思います。

それでは、榊原未来会議の皆様の方から活動報告をお願いしたいと思います。

榊原未来会議 長 私達は榊原未来会議です。平成23年度に行政と榊原温泉旅館組合が一体となって榊原温泉の活性化に向けて、榊原の町を何とかしたいということで榊原温泉郷活性化検討会が設置されました。その活性化検討会が、榊原住民方からのアンケートを平成24年度に実施しました結果、「若手の意見を聞け」という意見を多くいただきました。

その結果、募ったのが榊原未来会議のメンバーです。当時は8名でしたが、現在は、15名になりました。三重短期大学の岩田教授をコーディネーターとして、幾つかのアクションを起こしました。検討の上、取り敢えず活動拠点を作ろうということになり、地元の区長が所有の山が誓願寺跡地とありますが、ここを公園

として整備しようということから始まりました。ビオトープなどいろいろと作る計画です。現在計画は止まっていますが、取り敢えず公園の整備は僅かではありますが、少しずつ進んでいる状況です。

昨年辺りから、畑と田をお借りしまして、野菜作りや、田んぼで子ども達の田植えから、米がいかにしてできるかを体験する活動や、芋を植えたならこんな風に育ち収穫までの体験をするなどの活動をしています。

そして、本年度は資料の写真にもありますように、田植えの前に泥コネを行いますが、この泥を活用して子ども達に「泥んこ遊び」をさせようと考えました。参加した子ども達に綱引き、ドッチボールなどをしていただきました。後、畑でサツマイモの植え付け、誓願寺跡の整備した公園で大工さんを講師に招いての木工教室、そして田んぼでの田植えから稲刈を行い、昔に行った「はさ掛け」、脱穀も実際に昔の機械で行いたかったのですが、昔の機械がないので取り敢えず地元の方の機械を借りて行き、「藁ぼっち」も作らせていただきました。

後は、久居まつりでのうまい棒のつかみ取り、秋の収穫祭では焼き芋、米袋で作った帽子やバックなどの出店を行いました。

来年度は、もう少し内容の濃いものにしたいと考えていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

議 長 はい、ありがとうございます。それでは、只今の説明内容及び榊原未来会議につきましてご意見等がございましたら、挙手の上、名前を告げて発言をお願ひしたいと思ひます。

また、榊原未来会議の方からも「まちづくりについて」のご意見があれば、お願ひしたいと思ひます。それではよろしくお願ひします。

岡 委 員 少し、お聞きするのですが、「泥んこ遊び」とか、「田植え」には子どもさんが多く参加していると思ひますが、このお子様は榊原の子ども達だけでしょうか、それともそれ以外の地域の方でしょうか。

榊原未来会議 旧久居市全体にチラシを配布していますが、地元の人の参加はほとんどありません。
会 長

服 部 委 員 その事業が、榊原温泉とどう結びついているのですか。温泉の集客にどう結びつくのですか。

榊原未来会議 榊原温泉振興協会というものがあひ、榊原温泉全体のまとめ役の事務局長がみえまして、我々の上にその事務局長がみえます。その方の命令というか、何とかしてほしいとのことで活動していますので、榊原地域を少しでも活性化したいということあひ。
会 長

服 部 委 員 そうすると、こういった活動を行って、榊原温泉の集客に繋がっていますか。

榊原未来会議 現状では、まだ、そこまではまとまってはいないのですが、少しは繋がって
会 長 いるのではとっております。

服部委員 この審議会でも西地区の榊原温泉の活性化を重点に議論しているので、これら
が活性化に繋がるのですか。これは地元の参加者がほとんどではないでしょうか。

榊原未来会議 いえ、この「田植え」などは地元の方は参加していません。子ども達もほとん
会 長 ど東の方の方達です。

服部委員 収穫祭も、そうですね。

榊原未来会議 はい、収穫祭も結構半分以上は他の地区の方です。
会 長

服部委員 それで、温泉客にどう結びついていますか。

榊原未来会議 湯の瀬の広場で行っていますので、湯の瀬の宣伝に繋がるのではないかと考えて
会 長 います。

服部委員 ありがとうございます。

中森委員 ずっと以前に榊原自治会の方が地域審議会の委員でいらした時に温泉旅館の方
と地域の方の確執をチラッと言われたことがありました。今、お話を聞いている
と、私達は榊原というと、まず温泉にどれだけお客さんをお呼びするように、皆が、
がんばっていかねばならないといった考えが、先に浮かびますが、皆様が今
がんばっていらっしゃるの、そういったことではなく、地域の一番の底辺から
盛り上げようという活動なのですね。

榊原未来会議 そうです。榊原がこういった所だと知っていただくところから始まっていま
会 長 す。

中森委員 それに対して、メンバーの方ががんばっているのですが、それに関係のない高齢
者の方もいらっしゃると思います。そういった方達がこういった形で皆様の動きと
か、どこまでの理解及び協力を示していただくかということと、この「泥んこ遊び」
というのも榊原の子ども達は出席していないのが少し引っ掛ったので、その経緯と
か現状が私達にも理解できるようご説明していただけるとありがたいのですが。

榊原未来会議 まだ、活動を始めて間がないので、自分達の思うようにはなっていないのが現
監 事 状です。「泥んこ遊び」に関しましては市内にチラシを配布していて、もちろん、

榊原にも配布しているのですが、外部からの人が割りと多いので、こちらの田んぼも小さいものなので、一度にたくさんみえても対応できないのが現状であります。ただ温泉もそうですが、住んでいる住民の確執があるかは私達には分かりませんが、住んでいる者のイメージとして温泉は温泉ですごくがんばっているイメージはあります。女将さんたちも東京まで行ってアピールしているのは知っているのですが、それが榊原の住民に繋がりがあるといって、あまり無いのかなということが、私たちもずっと引っ掛かっていまして、たとえば夏の「蛍灯」という行事が射山神社というところで行われていて、昨年、私達も参加したところ、すごく盛況でありました。こんなに盛況なのに、私達はそれまで、その行事を全く知らなかった。それは、旅館の主催行事なのですが、それまで私達との接点が無かった事が、私達が驚いた面でもあります。

後、私達が行っているのは、とにかく地元を盛り上げたいという事がありますので、その中で、例えば、まだ出来ていませんが、フリースペースみたいなものを作って、そこに外部から気軽に寄っていただいたり、地域の人もそこに集まって来る。そこから私達の活動も知っていただいたり、全体として、盛り上げて行きたい思いはあります。ただ、まだ始まったばかりなので目に見える結果というもの出てきていないので残念なのですが、これからがんばって行きたいと思えます。

森下委員 写真に示された様な行事を行っているという事ですが、各行事の参加者数の記入がないので、参加者数を知りたいのが1点目です。2点目は、先程のお話では湯の瀬に来場されたお客様をこういった行事にお誘いするとの事でいしたが、「泥んこ遊び」などでは、それなりの準備も必要になってくると思いますが、教宣活動はどれくらいの事を想定して、どのように行っていますか。

榊原未来会議 申し訳ございませんが、本日は資料が手元にないのですが、確か、「田植え」と
会長 「泥んこ遊び」と「木工教室」はそれぞれ60人前後來ていただいたと思います。後は平均30人程度です。

森下委員 子ども達だけですか、ご家族も含めてですか。

榊原未来会議 ご家族で来ていただきますので、家族を含めています。後、教宣活動ですが、
会長 チラシを各学校へ人数分だけ配っています。

森下委員 行事の準備ですが、必要な物などは、例えば、手袋などは主催側で用意するのでしょうか、それとも参加者が用意するのでしょうか。

榊原未来会議 こちらで、提供できるものは全て準備いたします。
会長

井 面 委 員 11月29日の収穫祭なのですが、これは、私は毎年楽しみにして参加させていただいています。いっぱい野菜を買ってきます。これは地元の方が作った物なのですか。また、農林高校が協賛してジャム等も売ってみえますね。毎年、おじやましても大盛況ですので、年に1回ではもったいない気がしますね。春にもう1回程開催してはと思うのですが。

榊原未来会議 春には、さくら祭りが開催されます。今年も4月2日に開催されます。
会 長

井 面 委 員 収穫祭と同じ様にいろいろな物を売られるのですか。

榊原未来会議 そうです。
会 長

佐 藤 委 員 榊原地区の活性化を目指して、取組をされているとのことですが、その活性化に対するイメージをどの様に持っておられるのか、例えば地域の住民、若手住民を主体としたまちづくりなのか、地域の人口増加、参加した人達から是非榊原に住みたいと人口の流入を目指しているのか、榊原地区の魅力の情報発信をしようとしているのか、活性化のイメージを教えていただければと思いますが、よろしいでしょうか。そして、皆さんそれぞれに思い描く未来会議の未来とか、榊原地区の未来を教えていただければと思います。

榊原未来会議 私達も、この会を立ち上げて初めて経験することがたくさんあります。地区の自治会長さん達の考えとか、私達の考えにズレがあり、私達若者は子どもが少なく本当に限界集落へと走っているの、これに歯止めを掛けたいというのが私達の実際の意見なのです。年配の方達は旅館への集客や、地域の活性化を話されるのですが、まだ地域がバラバラ、いろんな組織があつて、それぞれ好きな事を言っている。なにもかもが、それぞれのやりたいことをしていてまとまりが無く、皆が別々に同じ事をしている様な感じでもあるので、それを一つにまとめたいたというのが私達の考えであり、そこからどういった方向へ持って行くのかを、これから決めていかなければならない段階なので、話し合わなければならない事が山積みです。私達の世代から見ても、子ども達の世代から見ても榊原住民だけでこの地域を運営していくのは、多分無理だと思います。ですから、空き家もたくさんでてきていますし、こういった田舎暮らしに興味があるとか、地域活性化に興味がある方はこちらへとといった考えもあるのはあります。

榊原未来会議 実際に人口が減って来ています。小学校も、この春の新生児が6人で決定です。
監 事 2、3年生になる生徒も、あと1人の転校生でも来ない限り複式学級になるのは決定しています。それがドンドン加速していきますので、若い世代はドンドンいなくなって、高齢者だけになっていくとの危惧もあり、今の高齢者の息子さんも

いるのですが、皆、榊原以外の近くに、グリーンヒルとか、青葉台へ出て行って住んでいます。それでは駄目だと思いました。家を出たら、もう帰ってこないと思いますが、帰って来なくなる地域に変えていきたいというのが、私達の根本にあります。ビジョンというのはその辺りになります。榊原を魅力的な所にした、住みたくなる様な所にしたという思いがあります。

大川委員　　どうも今、お話をお聞きしていると、バラバラに活動しているようで温泉協振興協会は温泉振興協会、旅館組合は旅館組合、未来会議は未来会議、自治会は自治会で活動している様に思えてなりません。それに加えて行政も多分バラバラだと思います。未来会議さんが昨年より「蛍灯」に参加されたと聞いて危惧しております。私は地域振興というのは、榊原地区であれば、榊原を他の地区に知ってもらうものだ、私は、勝手に解釈しています。従いまして、未来会議が行っている様に地元からというのもよく分かります。そして、「泥んこ遊び」も他の地区の方がみえるのは結構だと思います。最初の方は旧久居市のやり方かも知れませんが温泉に来るお客様のリピーターを増やすという事で、「泥んこ遊び」とかいろいろな催物があるという事で他地区や榊原温泉といえば関西方面からお客様が来ますので、そういう方面に行政とタイアップしてアピールしていただいて、そういった方向で活動してほしいと感じましたので、一言ご意見を言わせていただきました。

佐藤委員　　今の意見は、バラバラよりはまとまってといったご意見だったと思いますが、私は、逆にバラバラがすごく羨ましいのです。私は万町ですが、50代を若者の中へ入れていただけるかどうか分かりませんが、私は50代なのですが、中々、私達の意見を地域に発言したり、反映させたりする場がないので、先程のご意見を聞いて羨ましく思いました。だから、本当に榊原地域の榊原未来会議の例を他地区にも広げていきたいなと思いました。是非、未来会議の成功例を情報発信して久居地域、津市全体にも広げていただけたらと思います。私はバラバラで、すごく羨ましいと思いました。

桂山委員　　若い方が積極的に活動していただくのは本当に素晴らしいことでもあります。今は、こちら側からいろいろ意見していますが、逆に皆さんからこういった事を、こういったお手伝いをしていただくといいとか、こういう方向でこういった方達にお知らせしたいとかいろんな事があれば、そういった所を、もっと広げて皆さんだけでなく、もっとお手伝いできる団体なり地域なりがあると思うのです。発信するという事もすごく大事だと思います。そういった問題点とか、思っている事があればお聞きしたいです。

榊原未来会議
副会長　　イベント等は初めてのことでありましたので、失敗もしたり、不足もあつたりしました。まず、「泥んこ遊び」ですが、これはメンバーの家の前の田んぼなのですが、人を実際に集めた時に困るのがトイレなのです。榊原に公共トイレがありません。先程もありましたが旅館とタイアップするとなれば、旅館の近くの

田んぼで開催すれば、トイレも水も確保できると思うのですが、そういった、人を集める、駐車場、トイレの検討もするのですが、今のところそういったところが無いのが現状です。やりたい事はたくさんありますが、受け入れる体制、メンバーも足りません、私達も普段は働いているので土日に参加できる人もいれば、土日は仕事の人もいます。そういった時はボランティアの確保も必要かと感じています。

宮田委員　お尋ねしたいのですが、大人が提供して事業してみえる訳ですが、子どもさんの反響はどうですか。当然、よいと答えるとは思いますが、それと旅館、提案というと僭越なのですが、榊原温泉に一度泊まったことがあります。私は久居在住ですが、朝、野菜をいただき大変うれしかった記憶があります。ですから、収穫されたものを旅館に提供されてはどうかと思います。後、「どろんこ遊び」とか、収穫される風景を旅館に展示してもらえると、よいかと思います。既にそういった事してみえるかもしれませんが他府県からみえる方もありますので、榊原ではこういったことを行っている、榊原を見直してもらえる機会になるのではないかと思います。そういった、野菜を提供されて、写真も展示いただき、皆様に知っていただくのがよいのではないかと思います。僭越ですが提案させていただきます。

榊原未来会議　今のご意見ですが、私達のメンバーではないのですが、月1回「朝市」を「おもてなし館」という所で行っています。それが、集客が増えてきていますので、私達も畑を借りて、今年から作付けをし、一度「朝市」に出店する計画です。

中森委員　旅館との連携プレイというのはすごく難しいというのはよく聞きます。旅館の女将さんとは仲良しですので、いろいろ聞くのですが、「蛍灯」の時も私の方に宣伝して欲しいとの依頼もあり、近所の方にPRもしました。自治会長さんの話では、何故旅館と地域と一緒にできないのか、自治会などがイベントをされる時に、旅館側が協力しないと云われますが、旅館側としては、すごく経営難であり、全てにおいて人権費が一番問題になるのですね、だからなるべく人を雇わないで自分ところで、やっていこうとすると、そういったイベントに従業員を派遣する余裕は無い訳なのです。そういった経緯がある訳で、そこに大きな問題がある訳です。旅館もイベントを開催してくれるのはありがたいけど経営に四苦八苦で、とても協力する余裕は無い訳です。今まで、旅館の経営がまずいとか、そういった事以前の問題が忘れた頃に何度もやって来る。自然の災害とか、関西の方での食中毒の風評被害とかが何度も来て、おもてなしを一生懸命しても、そんなことが何度もあり経営が四苦八苦というのを何回か聞いています。その辺で、皆さんにはありがたいとは思いますが、あえて他を向いて協力していない訳ではない。出来ない状況というのを、旅館の経営者は話しています。どうでしょうか、それに対してご意見ください。

榊原未来会議 会長 その辺は、私達も十分に分かっていますので、無理は言わないのですが、榊原温泉は3大名泉で知名度は高いので私達もそれを利用したいと思っています。旅館の経営側や自治会側としては、分かっていますが、予算が無いので、その辺で、ギスギスしたところがある様です。

大川委員 「泥んこ遊び」で服が汚れますね、そうすると、後でお風呂も入りたいと思います。どちらとタイアップしていますか。着替える場所などは、どうですか。

榊原未来会議 会長 着替え場所は広い場所で、テントで囲って、場所を取っています。

大川委員 その後に、温泉へは案内していませんか。

榊原未来会議 副会長 「泥んこ遊び」に来る世代はやはりお金が一番無い世代の若い夫婦なので、なるべくお金を掛けずに子どもを遊ばせたい考えの方が多いのですね。それを集客に繋げようとするとお爺ちゃん、お婆ちゃんまで、引っ張って来ないとお金は落ちていかないと思います。「どろんこ遊び」の時は小さい子ども用のプールを3段階で用意して段々きれいになっていく様にしています。

中森委員 ひさい榊原温泉マラソンですが、イベントの目的というのは旅館に泊ってもらってお客さんを集めるものが目的だと思っていたのですが、地域振興課長にお伺いしたら、参加者は大会を追いかけて全国を回っているから旅館に泊まるような方は来ないといわれたのですね。その辺の我々素人との考え方と違いは大きいのですね。だから、いろんなイベントをすれば、宿泊客が増える訳ではない。イベント、イコール宿泊客ではないという事で非常に難しいと思うのですが、皆さん、いかがでしょうか。

榊原未来会議 副会長 集客イベントも考えていかなければいけないという事で、例えば、散策コースなども整備していきたいという意見もあります。個人的な意見ですが、集客を考えると早朝スタートが一番いいと聞いたことがあるのですが、例えば縦走が都会の方では結構、流行っていて、神戸には六甲山の縦走60キロというのがあり、それは、早朝5時のスタートになりますので、前泊しないと参加できませんので、その日だけは神戸は潤っていると聞いたことがあります。ですから、そういった縦走で白山・榊原とか大きく山を駆け巡るようなコースができれば、早朝であれば泊まりは確保できるかなと、私の意見としてはあります。

榊原未来会議 会長 現状ですが、マラソンに来ていただいても、榊原に泊まりにきていただいても、榊原の町は店も何も無いので、泊まっていただくだけになります。お金も落ちないのですね。それも一つの問題でありますので、泊まりに来ていただいた方を後1日、2日引き止めたいと思いますので、これからも考えていきたいと思っています。

議

長 私は、現在、榺原の方で榺原自然学校というのをやっています。今年で3年目になりますが、その土地に行って、初めて分かる事があります。外部から見ると旅館でも何をしているのだという言葉も出ますが、旅館そのものは、いろいろと企画したりしてがんばっています。地域においても区長会の他にも諸団体ありますが、収穫祭の際は、温泉振興協会は全て出店します。当然、未来会議も出店しますし、当然私の所の榺原自然学校も出店します。そういった事で地元の各方々がお野菜を出していただいて、それを販売します。それは地元の様々な団体が出店して、それで収穫祭は、集客が非常にいいです。一番困っているのは駐車場の問題です。湯の瀬だけではとても賄いきれませんので、近隣で臨時の駐車場を確保しているのですが、収穫祭は来場者が多いので、駐車場はパニック状態です。そういった事で、地元では湯の瀬の近辺を整備する計画を行政絡みでしていただければ、榺原の発展に繋がると思います。そして、榺原に若手の方でこうして15人の方が加入して、この久居地区を眺めただけで、若手のグループで思い浮かぶのは「久居げんき会」、そして「榺原未来会議」の二つだけなのです。だから、「榺原未来会議」というのは非常に楽しみな団体なのです。実際に活動が始まりまして2年目ですので、2年で、あれもこれもしろというのは、難しいですよ。石の上にも3年と言いますので、その点では様々な事を27年度は立案、計画されて実際に行いました。そういった事で自然をモチーフにしました活動を展開していきます。地元の子どものというのは、例えば、木工教室とか竹細工教室等を企画して情報発信しても地元の子どもの来ません、何故かという小さい頃から、田んぼや畑に入ったりしていますので、全部体験済みなのです。久居を二つに西と東に分けて、西の方のどちらかと言えば農村地帯と東の方の町場ですが、町場の子どもが来ます。経験がないから。これが段々と知れ渡り新津市10地区から来ることとなります。私どもの榺原自然学校も現在は、久居地区だけではなく、他の地区から、一志や白山からも参加していただきます。そういった事で、年数が経つにつれまして、内容も様々な経験をして充実してきます。それが、旅館とのタイアップに繋がり、旅館へ活動を周知することにより、旅館からもお客さんへ声掛けもしていただける。それには、まだまだ、今すぐというのは難しいと思いますが、これから楽しみな団体だと思います。これは個人的な意見ではありますが、「久居げんき会」、「榺原未来会議」そういった事で、「榺原未来会議」も是非とも「久居まつり」の運営委員の方へ入っていただきますようお願いいたします。「久居げんき会」が運営委員に入っていますので、二大勢力が「久居まつり」の運営委員に入っていただきまして、この久居地区を盛り上げていただくように、よろしく願いいたします。

桂山委員

サオリーナが、29年度完成します。そうすると、かなりの施設ですので、全国的にいろんな団体が利用されると思います。その時に、是非、榺原温泉を宣伝していただいて、お泊りは榺原温泉へということで温泉が潤えば、皆様方に、協力体制もできるのではと思います。それは、行政の方には是非お願いしたいのです、

私も全国組織に入っていますので、声掛けします。少し距離がありまので、バスなどを用意していただいて、そうすると唯一近くのいい温泉が、温泉の名前は皆さん、結構ご存じですので、全国的には知れ渡っているから、是非、来ていただきたいと思います。

大川委員　今の桂山委員の意見に関連しまして、私もスポーツ関係に携わっておりまして、2年後にインターハイがあります。これはサオリーナで開催されます。インターハイは8月なのですが、当然、榊原温泉に子ども達が泊まると思います。多分、そういった割り振りを市の方でしていると思います。それから、また、3年後のオリンピックの後に、国体があります。これも、当然、サオリーナが会場になります。私の個人的な意見ですが、私の友達が伊勢など、三重県に来る時は、榊原温泉に泊まるようにお勧めしています。ただ、私の友達は子ども達を預かって来ますので、榊原温泉は料金が少し高いので、予算の問題があります。しかし、榊原温泉は、遊ぶ施設が無いのでいい所だと、私はお勧めしています。私の友達は高校生を指導していますので、やはり、遊ぶ所が無い方がよろしいのです。旅館の方には申し訳ないが、施設が古い所があります。料金はそれなりにしているようです。2年後にはインターハイ、オリンピックの後に国体がありますので、これは、全国から三重県へ来ていただきますので、その機会がありますので、皆さんもがんばってください。

上田委員　未来会議の方にご質問があるのですが、私は以前に「歩く会」の関係で「布引の滝」へ下見に行ったのですが、色々なコースを通過して「布引の滝」へ行きましたが、榊原の方から「布引の滝」の方へは行けないのでしょうか。そう言いいますのは、「布引の滝」は「赤目四十八滝」に匹敵する滝が結構ありますので、確か、あそこには東海自然歩道が通っていると思うのです。ですから道路の整備を兼ねて「布引の滝」を通過して「青山高原」に登るコースを市の行政の協力で整備していただくといいと思います。榊原から「布引の滝」までの道はないのでしょうか。

榊原未来会議
監　　事　　私は山歩きによく行きますが、実際に「布引の滝」までは行く事はできます。ただ、距離が結構あります。榊原から行くとしたら、一番奥の集落から一度猪の倉へ抜けて、下の集落を抜けて、近鉄の駅の方へ山の中を進んで「布引の滝」へ行く事はできます。距離がかなりあり、本当に好きな人は行くと思いますが、一般向きには難しいと思います。

井面委員　今、全国的に中国人の観光客が増加し、旅館やホテルにも多数が訪れている様ですが、市内でも都ホテルが常に観光バスが2台来て、駐車場はお城の所に停めて、ホテルの下のスーパーや薬局が潤っていると聞きます。榊原温泉には、中国人の観光客はどうか。そのようなことも考えてはどうでしょうか。

議 長 よろしいでしょうか、活発な意見が出てまいりましたが、そろそろ時間になりましたので、未来会議の皆様、ありがとうございました。貴重な時間、ご出席をいただきありがとうございました。今後の未来会議のご活躍を期待しております。それでは、榊原未来会議の皆様にはご退席いただきます。

地域振興課長 榊原未来会議の皆様、ありがとうございました。

これを、ご縁に今後活動の支援のお話しもございましたので、今後の活動で力を借りる様な事がございましたら、事務局が窓口をさせていただきますので、審議委員様からでも、未来会議様でも結構ですので、連絡をいただいたらお繋ぎさせていただきます。今後ともよろしくお願ひします。

(榊原未来会議退席)

議 長 それでは、事務局の席の移動をお願いします。
暫時休憩します。

(事務局席移動)

(10時35分中断)

(10時45分再開)

議 長 それでは事項2のその他に入らせていただきます。
事務局より説明をお願いします。

2 その他

地域振興課長 その他の項でございますが、冒頭の支所長挨拶でもございましたが、地域審議会も10年が経過し、10年の区切りということで、他の地域審議会も含めまして、お手元の資料2でございますが、今まで過去10年間の記録ということで、この資料は表紙だけ、変えさせていただいた状態ですが、事務局の方で地域審議会の記録誌の取りまとめをさせていただきたいと考えております。内部的には、ここに至るまでには、例えば、一つ、委嘱状交付の時は寄ってもらってましたので、解散式のようなセレモニーはどうか、案はいろいろございましたが、他の類似の団体を参考にしまして、津市には10の地域審議会がございますので、それぞれの地区の事務局において様式だけは同じで、これまでの活動の記録を作成する事で進めさせていただきたいと思ひます。資料2の表紙をめくっていただきますと、地域審議会の設置の経緯ですとか、開催状況と主な審議事項或いは諮問、諮問に係る答申の内容、そしてこれまでに至る委員さんの名簿でございます。このような形で取りまとめをさせていただきたいと思ひます。

また、5番の現委員の感想という事でございますが、もう一枚の資料を見ていただきたいと思います。こちらにつきましては本日付けで、事務局の方から各委員様にお願いする内容でございまして、地域審議会記録誌作成に係る原稿の提出ということで、資料2に戻っていただきますと、資料はイメージでございまして、13ページからお開きいただきたいと思いますが、審議委員としてのこれまで活動していただいたことを通じ合併10年を振り返るということで、地域審議会委員としての合併10年を振り返るというテーマで400字程度の原稿を提供いただき、こちらへ掲載をさせていただきたいと考えております、これまでいろいろご審議をいただいた経緯も含めて一つの感想でございまして、もちろん中身につきましては、今後と言う事にも触れていただいても結構ですし、副題としてテーマ設定はさせていただきましたが、内容は地域審議会、本日も前段で議論していただきましたが、まちづくりというテーマに置き換えていただいても結構でございますので、2月29日(月)までに、お手元に原稿用紙も用意させていただきましたので、この原稿用紙に記載していただき、返信封筒で送付していただくなり、メールなどをご利用の場合は、雛形を送付させていただきます。そのような事で記録誌の発行にご協力をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。なお、記録誌の完成版でございまして、次回の第5回目の地域審議会が3月の下旬頃になるかと思ひます。と申すのは、前回第3回地域審議会で市の総合戦略(案)に対して案を頂戴いたしました、その総合戦略の最終版がまだ出てきておりましたので、最後の第5回目につきましては、総合戦略の久居地域に関わる部分のご説明をさせていただきたいと考えてお申して、確実にご説明できる時期として3月下旬になると思ひますので、2月の末で原稿を頂戴いたしまして、事務局が頑張りまして、3月末ぐらいまでに完成させ、最終回にできればお渡しをさせていただきたいと考えてお申します。次の審議会の事も触れてしまいましたが、次回、3月の下旬頃で調整をさせていただきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

議長 只今の、ご説明に対しまして、質疑があればお願ひします。

佐藤委員 感想の宿題がでましたが、会議が始まる前にも話しをしていたのですが、10年に及ぶ地域審議会の中で、ある委員は2年しかしていない、私は4年ですが、井面委員さんが1番長いと思ひますが、それにしても最初の頃の感想は大事だと思うのです。だから現委員だけでなく、委員経験者全てだと膨大な数になりますので、例えば、会長をされた方、その方にも感想を寄せていただくと、最初の頃の振り返りもできるのではないかと思ひますがいかがでしょうか。

地域振興課長 そこまでの想定をしていませんでしたので、検討させていただきます。当時の会長だけいただく、そういった内容ですね。検討させてください。

中森委員 活動を通じ、合併10年を振り返る、漠然としているので、自分が書くので自

分の考えには間違いないとは思いますが、この会議に出席させていただいた感想であるのか、合併10周年なら我々なら久居に住んでいるの状況を自分が見た感じを書くのか、その辺りが漠然としていて、何を書いていいか分かりませんが、どうでしょうか。

地域振興課長　私が考えていますのは、今の例を挙げられた二つのどちらも良いかと思います。この地域審議会に関わっていただいて、関わりの中での感想でもいいと思いますし、地域審議会で審議していただいた中身は、久居地域のまちづくりに関わる事ですので、この10年で久居地域がどうなってきた、今後どうあってほしいとか、どちらでも書き易いところから書いていただければ内容は自由でございますので、そのようなイメージでお願いしたいと思います。

井面委員　これは、久居地区のみで作成するのですか。それとも全地区で本庁の方へ提出するのですか。

地域振興課長　これは久居地区地域審議会ですが、全地域で、10冊の冊子ができます。共通様式で、中身の感想はそれぞれで作成します。

田中委員　別の話になりますが、本日の未来会議とのまちづくりについての意見交換ですが、もっと委員になった最初の方で企画していただくと、この間も榊原の事で意見を述べましたが、未来会議の方の考えをもっと早くお聞きしていれば、もっと、良い考え出たのではと思います。というのは、今までは、榊原の自治会、未来会議、温泉関係がうまくいっていないというのが情報で分からない訳です。前に審議会でも榊原について審議しましたが、あの時か、その前に来ていただいて、お話しできれば、現状を把握してからの審議になりますので、もう少し良い審議ができたのではないかと思います。

中森委員　私は、以前に地域審議会の委員に榊原の区長さんがおみえでしたので、旅館との確執とかを、結構お聞きしていましたので、内情を分かっていました。

議長　あの時に区長さんが、話されたのは、多分、人的な問題だと思います。そう申しますのは、例えば、収穫祭をするにしても、イベントをするにしても、結局、旅館から人手を出してくれないという所だと思います。人手を出さないで協力が無いというニュアンスだと思います。他の事は別です。「蛍灯」などについては温泉振興協会が主催で行っています。「収穫祭」とか「さくらまつり」には全部旅館組合は出店しています。ただ他のイベントの時に各旅館から人手を出したり、片付けを手伝ったりはしていない状況です。イベントの実行委員会には、温泉振興協会の会長も入っていますし、事務局長も入っています。事務局長は実際に「おもてなし館」に事務所を構えて、榊原のイベントは率先して行っています。それは、旅館の頭として、顔として、行っている訳ですので、個々の旅館から人を出

さなくても、事務局長と事務員がイベントに出て、出店もしています。そのニュースが旅館から人が出ていない、旅館はたくさん人がいるイメージがある訳です。従業員がいるという。それなのに、人を出してくれなので、協力が無いと思われるのだと思います。

中 森 委 員 かなりの確執があるように、私はイメージしていました。

議 長 そんな事は無いと思います。

田 中 委 員 今でも、マラソン大会の後は、温泉に入れる様になっているのですか。

地域振興長 はい、その様にさせていただいています。

田 中 委 員 はっきり言いまして、旅館というのは、何もないと泊まりにくいですね。ただ、旅館へ行って、温泉に入って寝るだけでは泊まりにくいですね。旅館の中で催し物をするとか考えた方がいいのではなんでしょうか。

中 森 委 員 地域振興課長、この前、私にお話された、マラソンの事を、今、お話ししてはもらえませんか。

地域振興課長 私は、ひさい榊原温泉マラソンを担当して5年になりますが、担当した最初の頃にはマラソン大会の参加を募集するのに、温泉ツアーを企画してはと、温泉振興協会にお話した事がございましたが、そこまでは無理でも、応募書類に榊原温泉のパンフレットも同封して送っていました。しかし、温泉宿泊への反応は、数組程度でした。そして、出場選手にもお聞きしたのですが、榊原の場合は公認コースではありませんがハーフコースがあり、大きな大会に出る為にこの時期と決めてご自分のタイムを確認に来るそうです。どちらかというとな榊原のコースは競技性が高いので、当日の早朝に来て走ってすぐに帰って行く方が多いと選手からも情報がありましたので、例えば、レクリエーション的なマラソン大会に変えて行くのはひとつの方法かも知れませんが、現状では、今の大会の形式で参加者が多い訳ですが、旅館の宿泊客の増加とは結びついてはいない状況です。ただ、湯の瀬及び旅館組合の協賛により温泉の入湯券を参加者に配布していますので、その中の5割強は温泉を利用されていますので、その中でリピーターとして来ていただける可能性はあります。

桂 山 委 員 先程早朝のマラソンというお話しがありましたが、私はスポーツ推進をさせていただいていますが、今でもお天気が悪かったりすると6時頃行っているいろいろな状況ですが、早朝になると、寝ないで会場へ行かなければならない状況でありますので、スタッフが毎年減って行く状況で大変だと思います。

地域振興課長 今、仰られるのは、マウンテントライアルの事だと思いますが、マラソンの実行委員には相談せずに、3年程前にマラソンのコース設計をされる方からご意見をいただき研究をした事があるのですが、榊原の場合は適当な距離が取れなく長すぎるという事と、山登りのマウンテンコースとしては勾配が急すぎるといった事で中断していますが、大会を開催するのであれば、別の事になりますが、マウンテントライアルであれば、事前審査を行い、参加者が選りすぐられますので、現在の榊原マラソン大会でも観察スタッフを多くお願いしなければなりません、正直に言って高齢化しています。従事者の数を減らす方法としてはマウンテントライアル大会に変えて行くのは一つの方法としてあるのかも知れません。事故が、起こったりする事まで心配すると、事前に了解を得る書類などが必要になって来ますので、大会的には別物になって来るかも知れません。

田中委員 それだけにしてしまうと、参加者も減りますね。ほとんどいなくなりますね。

森下委員 津シティマラソンが3千人と新聞に出ていましたが、榊原マラソンは何人程でしょうか。

地域振興課長 2,075人です。マラソンブームもあるのかもしれませんが、6年前は、800数十人のペースが続いていましたが、今は6年前の倍以上です。今年が第18回になりますが、第1回目は2,600人程です。

議長 まだ、時間もございます。他にご意見がありましたらお願いします。

宮田委員 榊原の方には、失礼ですが、過疎化というのですか、そういった地域が非常に多くなって来ていますが、いろいろな地区で対策を講じていると思いますが、それが続くかどうかとか、いろんな問題があると思いますが、当然企画する方とか参加するより企画が持続できるかとの問題がありますが、久居地区で様々な問題で、例えば人口の減少とか、企業の立地とか難しいですね。人口的に考えても大きな都市でもないし、やはりその上においては、これは自分の考えではありますが、行政の手腕、行政に依存するところが大きいと思うのです。例えば、自治会で最近集まりがあったのですが、中々参加してくれない。いろんな都合でね。そして高齢化ですね。お年寄りの方は座って黙して語らずで、一部の方が話しているだけの状況です。全く質問もない。どちらでも、そういった状況だと思います。だから、榊原地域でも、地域の方が集まって、良い意見を出す事は難しいではないか、住民は行政が行っている事に期待する事になるのではないかと、これは、私の考えですが、そういった傾向になるのではないかと思います。まとまりというのは、非常に難しいですね。私は民生委員もしていましたが、敬老会でも自治会は協力しきれません。私も敬老会に参加するような年齢ですが、準備などをお手伝いしました。年寄りばかりがやっている状況で、若い者は活発に行動してくれません。そういった傾向があります。いつものメンバーが決まりきった話をし

ている。そういう事があるのですよね。だから、榊原のようなお話は、羨ましいです。私は南が丘中学校に勤務しているのですが、あの辺りは新興住宅で30人のクラスで、お爺ちゃん、お婆ちゃんと同居しているのは5人ぐらいですね。例えば稲作の話をして、全く知らない。先生が説明しても、説明するのに四苦八苦しています。授業が進まない状況です。木工にしても、全く削れない生徒ばかりです。のこぎりもカッターナイフも使えない。だから、榊原未来会議の活動は本当に立派な事だと思います。

私は市外から引っ越してきてから、いろんな事をしました。地域の盆踊り、それも段々無くなり、子ども会の活動も無くなり、地域で一生懸命にすることが無くなってきました。大きい久居まつりとか花火大会などは参加させていただきませんが、地域では、できない状況です。だから、行政の行う大きな行事にしか参加できないような現状です。

同じ事をいいますが、榊原でこういった事があると聞くと自分としては、羨ましいですね、参加したいと思います。

だから、榊原未来会議の活動などはどんどん発信していただきたいと思いたす。

学校にも行ってPRしてほしいです。子どもは、そういった事を全く知らないのです。

森下委員

最近テレビで見たのですが、小中学生の遊び道具ですが、バットでも柔らかいのですね、普通でしたら金属バットでも、木製のバットでもボールを打つとカーンと音がするのですが、バットもボールも柔らかいので、音がしないのです。硬い物は危険という事もあるらしいです、サッカーボールも柔らかいそうです。みんな柔らかい物を使っておると、子どもが硬い物を使う能力が無いみたいですね。それと足の指が弱いから、体の中心がしっかりせず、グラグラして真っ直ぐの姿勢が出来ないのでぐらつきが多いそうです。その様な事をテレビで見ましたが、今の子どもは生活環境がその様な状況だそうです。これは余分な話です。

話は変わりますが、私は久居城下案内人の会をしています、誠之小学校の校長先生から依頼があり、3年生に「昔の暮らし、久居の様子」のテーマで話をしてほしいとの内容でした。ガイド会のメンバーは久居生まれの久居育ちの人が本当に少ないものですから、久居の様子とか、久居での暮らしと限定されると困るのですが、暮らしはどちらでも居ても似たようなものだと思いますから、それで会員の中から意見がでたのは、家にある昔の道具、例えば遊び道具、生活の道具を探して持ち寄る事になり、明日、久居公民館に持ち寄る事になっているのですが子どもに話すよりも、見てもらいながら話しをした方が、或いは、質問を受けて話した方が理解してもらえるのではないかと、私達もこういった経験はないものですから、初めての挑戦といった形で取り組んでいます。昔の炬燵、石臼、タライ、お櫃があったと、いろいろですが、そんな取組を始めております。郷土資料館があり、そういった物を展示してれば、こういった苦労は無いと思いますが、私も家の物置を二日かけて探しました。

今のところ仮称ですが、久居ホールが平成31年度に完成予定です。丁度、藤堂高通公が徳川幕府から久居藩開府の許可を受けて、平成31年には、350年になります。そんな事もありまして、会員からは久居ホールの正式名称は「高通ホール」にとの提案がございます。その様な事から、久居ホールのオープン記念の時には、350年も合わせて考えていただければと思います。名前は市民に募集するのかなと思いますが、是非「高通ホール」とご提案します。

中 森 委 員 森下委員に一言いいたいのですが、そういった事は、ホールの説明会の時にも、ご出席いただいて、そういった事をその中で特別なギャラリー的なものは難しいかもしれませんが、今月がこういったものを展示しますとか、そういった事にすると、皆様に展示できるのではないかと思います。説明会の場などで、発言していただかないと、この審議会の席で意見を出されても、的外れではないかと思えます。

森 下 委 員 いつも、市からの説明会の時には毎回参加しているのですが、先日は忘れていました。

中 森 委 員 説明会の席で、発言することが大事ではないかと思えますので、代理を出して意見を発言していただくとか、考えていただいた方がよいのではないのでしょうか。

議 長 他にどうでしょうか。

森 下 委 員 3月26日に名松線が復活します。翌日の27日が、私達ガイドネットの10回の名松線ウォークになります。市は、平成27年度で、名松線復旧推進室を廃止すると聞きましたが、ガイドネットの会員の中で復活した後が大事なのに何を考えているのかといった意見が出ています。名松線復活については、私達、津市は頑張っていますが、JRは、復活しても赤字路線ですので、早く潰れた方がいいみたいな考えがあるようで、協力は中々していただけない。今まで市が設置していた名松線復旧推進室が建設を中心としたポジションだったと思いますが、従って、職員の方は土木関係の技師だとか、そういった建設関係の方達だったと思います。形を変えて、観光振興課に近い、所謂、集客のための対策室を考えたいただけたらと、そういったものが無いと、私達ガイドネットが、一志町、白山町、美杉町のガイド会が一致協力して、今まで、集客のための活動をしてきておりますが、行政の方で対策の拠点を無くしてしまうと、美杉町だけの問題に、すり替わる可能性があるかと、一志、白山との協力関係が乏しくなってくることが心配されます。復活した夏の期間3回程、ガイドネットはウォーキングを行う方針でいます。美杉町も過疎化が進んでいます。久居地区では榊原では過疎化が進んでいます、榊原の活性化ということで考えていただきたいと、かつては風車記念館、道の駅などの議論がれたかと思えますが、榊原地区での行政の構想とかはどうなっていますか。

地域振興課長 榊原地区の活性化の構想については、最新のものは本日出席していただいた榊原未来会議さんが作成されました、「榊原地域活性化計画」です。

これに基づき、今年度は地域かがやきプログラム事業での僅かな支援ですが行いました。実は計画の作成前から久居総合支所の方で支援させていただいておりまして、そういった形でバックアップをしているのが現状でございます。

総合支所長 それから、名松線については、詳しく私は知りませんが、森下委員のご意見のように、今までは名松線の特別な推進室がありましたが、それは、工事関係が中心でありましたので、それは、一旦区切りが来るので止めると思いますのは聞いておりますが、その後は、ハード・ソフトで申しますとソフト事業になりますので、ソフト事業に関しては担当を設置して、今後ソフト対策として行っていくとお聞きしております。そういった、体制で対策していくと、私としては認識しております。

議長 森下委員が活動してみえるガイド会は、津市で現在14のガイド会が活動しています。久居地区でも、森下委員が活動している「久居城下案内人の会」と「榊原温泉ふるさと案内人の会」の久居地区では二つあります。津市全体では、旧市町村に必ず一つありますので、全部で14団体あります。名松線は、通るところが一志、白山、美杉になりますので、3地区のガイド会が主になって、他の地区は応援していると、そのような状況です。

森下委員 実は、大幡議長も榊原のガイド会の会員なのです。

議長 すいません榊原に第二のふるさとを作っておりますので、そちらの活動をしてります。

森下委員 それから名松線の私達が計画した10回のウォーキングは、いずれも土曜日、日曜日になりますので、総合支所が休日に当たりますので総合支所の駐車場を利用して、名松線に乗っていただきます。

議長 名松線に絡む団体は現在「名松線を守る会」と「名松線を元気にする会」の二つあります。行政絡みでなく、任意団体になります。そちらが、これからもいろいろな企画をしたいと思います。是非とも、名松線に乗っていただきたいと思ひます。

余談もあり長くなりましたが、それでは、他によろしいですか。

本日の事項は全て終了しました。

以上を持ちまして第4回久居地区審議会を終了します。

本日は、ありがとうございました。

(終了 11時35分)